

佐世保近郊

県北 対馬 吉岐 五島

英語とプログラミング 子ども向け教室開設

元長崎短期大事務局長の溝越さん



「グローバル社会で生き抜く力を育てたい」と意気込む溝越さん =佐世保市、Multi Stage

長崎短期大(佐世保市)の元事務局長、溝越隆嗣さん(54)は、子ども向けに英語とプログラミングの教室を展開する会社をつくった。語学とITという異なる技術を通じ学んでほしいのは自分の思いを伝える力。「これから英語もプログラミングも避けて通ることはできない。グローバル社会で生き抜く力を育てたい」と語る。

を抱いた。帰国後は長崎国際大と同短大で国際交流や留学生募集の業務に従事。外国の大学関係者からは、迅速で明確な意思表示を求められることが多かった。「英語で物おしせず意見を言える力が必要。でも成長すれば修正が難しくなる」。小学生のうちから発信力を育てる必要性を痛感した。

30代のころに約2年間、米国の小学校で日本語教師を経験した。質問を投げ掛けられ、自分の存在をアピールするかのようになり手を挙げて発言する子どもたちの姿に衝撃を受けた。当時は経済大国として世界に追われる立場だった日本。しかし渡米前に学習塾で接してきた日本の生徒との違いに「このままでは(国際社会で)差が広がる」と危機感

発言力、思い伝える力育む

国際社会で異文化の相手に思いを伝える訓練としてプログラミング教室も取り入れた。子どもたちはインターネット上の学習ツールを使い、ゲーム感覚でプログラミングの仕組みや技術を学ぶ。2020年度の小学校でのプログラミング教育の必修化も見据えるが、「プログラミングは何も知らない人に何かをさせることと同じ」と強調。「方法やうまく動かない原因を根気強く探求する過程は、習慣や言葉が違ふ人との問題を解決することにつながる」と語る。

溝越さんが4月につくった「Multi Stage(マルチステージ)」(松浦町)では、子どもたちがグループで議論しながら英語を学ぶ。授業の前には「好きなアニメは何か」など英語で説明することを課題として与える。授業では外国人講師が表現方法やコミュニケーションの取り方を助言。最終的にグループで発表できるように練習する。